



特集

ICTがもたらす医療改革

インタビュー
8:01



プレゼンテーション
6:05



デジタル療法(DTx)と治療用アプリ

近年産業保健領域ではICTを活用した取り組みが広まりつつある一方、エビデンスベースで支援の価値が創出できているかという点で疑問が残るものも少なくありません。そんな中、日本初のモバイルヘルス 禁煙治療アプリが保険適応され注目を集めています。

佐竹氏に「治療用アプリ・デジタル療法とは」、「既存治療アプローチとの違い」など詳細に伺いました。



株式会社 CureApp 代表取締役社長
兼 医師

佐竹 晃太 先生

●ご紹介
慶應義塾大学医学部卒、日本赤十字社医療センターなどで臨床業務に従事し、呼吸器内科医として多くの患者様の診療に携わる。2014年に株式会社CureAppを創業。現在も週1回の診療を継続し、医療現場に立つ。



疼痛

痛み診療を成功に導くために ～日常生活の改善を治療目標に設定することの重要性～

7:25



医師会員
限定動画

POINT 1

神経障害性疼痛の診断と薬物療法を
解り易く解説

POINT 2

治療満足度向上に向けた治療目標設定の
重要性

POINT 3

ミロガバリンの臨床成績紹介

神経障害性疼痛はQOLを著しく損なう疾患であり、痛みのために日常生活に支障を来す患者さんは少なくありません。患者さんが痛みには捕らわれない生活を送るためには、痛みの軽減と共にADLやQOLの改善を目標とすることがとても重要です。

そこで、神経障害性疼痛の診断方法、ガイドラインに基づいた薬物療法や治療目標設定のポイントについて具体的に解説いたします。併せて、末梢性神経障害性疼痛治療剤ミロガバリンの臨床成績についてもご紹介いたします。

提供：第一三共株式会社



日本大学医学部
麻酔科学系麻酔科学分野 診療教授

加藤 実 先生

CLINICAL CLOUD
LIVE
クリックライブ

プレミアム ハンズオンセミナー

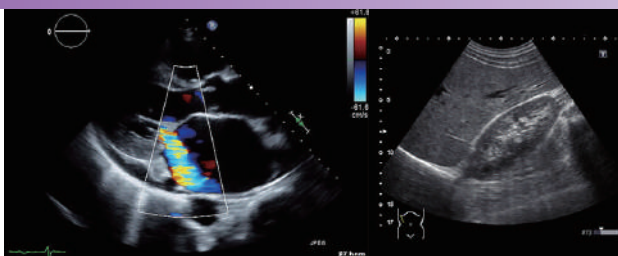
Vscan Air

Vscan Extend

検査内容・利用シーンに応じた2つのポケットエコー

共催：GEヘルスケア・ジャパン株式会社 x Doctorbook

2021.7.27[tue]
19:00~
Coming soon...



操作の簡便性と信頼できる画質と機動力。
様々なシーンで正確・迅速な診断をサポートします。

へき地 フライマリーケア 診療室
看護 訪問診療 緩和ケア
周産期 POCUS スポーツ整形
病棟 災害 エコー教育 救急

心腎貧血

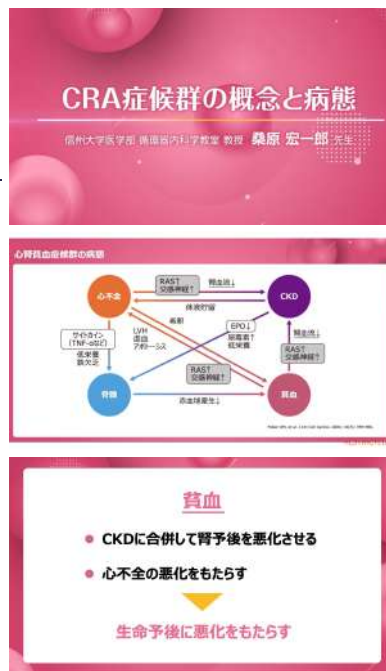
CRA (心腎貧血) 症候群の概念と病態



- POINT 1 貧血・CKD・心不全は互いに影響し合い、悪循環を形成
- POINT 2 CKDに合併した貧血は患者さんの生命予後に影響
- POINT 3 CRA症候群の悪循環の進展抑制のために貧血治療が重要

CRA (心腎貧血) 症候群とは貧血がCKDと心不全の両方に合併し、いずれの病態悪化にも関与しているとの考えから提唱された概念です。腎性貧血のような貧血はCKDに合併して腎予後を悪化させるだけでなく、心不全の悪化をももたらし、患者さんの生命予後に影響を及ぼします。CRA (心腎貧血) 症候群の悪循環を抑制するには早期から適切な貧血治療を行うことが重要です。

提供: バイエル薬品株式会社 PP-MOL-JP-0514-21-06



腎性貧血

これだけは知っておきたい！ HIF-PH阻害薬バフセオの臨床成績



- POINT 1 腎性貧血治療において維持すべき目標Hb値と開始基準
- POINT 2 保存期および透析期でのバフセオの腎性貧血治療効果
- POINT 3 バフセオの臨床成績と安全性情報を分かりやすく解説

本動画では、腎性貧血治療の新たな選択肢であるHIF-PH阻害剤バフセオ錠について、その臨床成績やガイドラインの解説により、具体的な使い方や注意すべき点をクイズ形式でわかりやすく紹介します。

提供: 田辺三菱製薬株式会社

(審) 21VI151



月経困難症



女性のQOLと 月経困難症

Part1
12:32
Part2
9:40



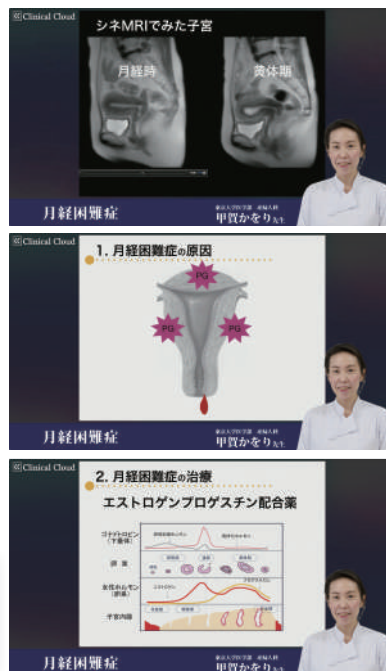
- POINT 1 LEPとOCの使い分け
- POINT 2 周期投与法と連続投与法の選択
- POINT 3 服薬コンプライアンス・アドヒアランス向上への取り組み

月経関連疾患に経口避妊薬 (OC)、低用量エストロゲンプロゲステロン製剤 (LEP) が有効であることは古くから知られています。月経困難症の疾患背景からLEP製剤が有効な理由を捉えることで、各投与方法の使い分け方をご解説いただきました。また、重要課題である服薬コンプライアンス・アドヒアランス向上のための施策として、患者日誌・アプリの活用を含めた服薬指導ポイントも伺いました。

東京大学大学院医学系研究科
産婦人科 准教授

甲賀 かをり先生

●専門分野: 生殖内分泌学、女性医学、低侵襲性手術



注目動画 2

注目動画 3

注目動画 4